

## 事業概要書

事業名	地域の馬文化を活かした地域コミュニティ創造と次世代人材育成事業				
開始日	2020/10/17	終了日	2021/9/30	日数	349 日
団体名 (カウンターパート)	特定非営利活動法人 相馬救援隊				
担当者名	中澤葉子	スタッフ人数	9 人		

事業費総額 (税込)	9,344,000 円
CF 事業枠	4,936,000 円
その他資金	4,408,000 円

事業目的	馬事文化を通じた、郷土愛に溢れた地域の次世代人材育成とコミュニティづくり事業
事業全体の概要	<p>○相馬救援隊とは 東日本大震災の直後に支援・救助活動のために結成されたグループの主要メンバーによって設立された。現在の主な活動拠点は福島県南相馬市だが、旧相馬中村藩領を含んだ福島県相馬双葉地方（2市7町3村）全域を主要な活動対象エリアとしている。発災からしばらくの期間は被災した人々への生活支援や動物、主に馬の救助・保護、行政や他の支援団体・個人との連絡・調整を行なった。その後、復興に向かう地域の課題を継続的にヒアリングし、経済や暮らしの再生、長年にわたり受け継いできた歴史・文化の継承、あるいはコミュニティの存続に貢献する施策の設計へと活動の主軸が移された。</p> <p>2018 年からは相馬双葉地方の歴史・文化的シンボルである「馬」をテーマとした馬事文化振興事業、地域活性化事業等に取り組んでいる。</p> <p>○取り組むべき課題 2011 年の東日本大震災・原発事故により、故郷・相馬を取り巻く環境は一変した。あれから 9 年の月日が流れたが、7 市町村は帰還困難区域が設定されたままである。2020 年 3 月、唯一全町避難が続く双葉町の避難指示の一部が原発事故後初めて解除され、それに続き大熊町、富岡町もそれぞれの駅周辺のみ解除となった。しかし今もなお爪痕は深く残され、人口が流出し、帰還者は少なく、少子高齢化に歯止めが効かなくなっている。例えば南相馬市の避難指示が解除された地区でも、住民は徐々に戻りつつあるものの、震災前に比べると人口は 4 分の 1 程度であり、小中学生の数はさらに激減している。</p> <p>「地方創生」の号令のもと、地方への移住・定住を推し進める動きもあるが、いまの相馬地方にはまだ現実的な話ではない。なぜなら街に、雇用・教育・医療・地域コミュニティなどのソフトインフラが不足しているからである。子育て世代・若年層の地域離れが著しく、崩壊した地域コミュニティの再構築は喫緊の課題である。</p>

小規模人数での教育にメリット面もあるものの、同級生・同世代の少ない子どもたちが、多くの価値観に触れコミュニケーションし吸収と成長をする機会の希薄さや、高校等進学や社会に出てからのギャップについていけるかという保護者からの不安の声も聞かれる。また、この地域で暮らす大人たちは少なからず原発事故後の心配事や悩み事を抱えており、その発言や様子が子供達の心に大変大きく影響しているということも懸念されている。

また、故郷を望まずとも離れなければならなかった人々が全国にたくさんおり、地元の人との付き合いがなく分断され孤立している方も少なくない。帰りたくても帰れない、いまだに喪失感に襲われている、避難先になじめず孤立している…など誰にも言えない辛さや悩みを持ちながら生活している方が多くいる。今年に入り、新型コロナウイルスの影響で日本中が閉塞感に包まれる中、さらに孤立を深めてしまった人もいる。一方で、この地域に魅力を感じ他地域から訪れる人や移住してくる人がおり、新しいことを創り出そうと取り組んだり、以前から地域にあった文化、食、自然等に目を向け地域の価値や魅力を再構築しようと取り組んでいる人がいる。地域にとって、人の活気が、地域の賑わいであり力である。人が集まると、地域は活気づき元気になる。地域の魅力が高まるとまた人が集まる…。避難者が帰ってきたいと思える場所、帰ってきた人が安心して暮らしていける場所、また出身者以外の人々の第二の故郷や居場所として、地域の内外問わずこの故郷と人々がつながり、様々な価値観で新しいコミュニティを創っていくことが、地域にとって大きな一歩になると考える。

相馬救援隊は、震災後の支援活動を通じて地域の人々と繋がること住民たちの声を吸い上げ、課題を抽出しながら地域での活動に取り組みながら、馬のスペシャリストであるという特色を生かして地域の馬事文化の振興・継承に取り組んできた。本事業においてもこれまでの支援活動を通じて生まれた地域外の方々とネットワークを活用し、南相馬の現状や馬事文化、そして魅力を広く発信することができると考えている。

世界で人とのつながりのあり方が変化した今だからこそ、避難者だけでなく誰もが当事者として捉えることができるのではないだろうか。

### ○事業の目的

子どもたちが学区等を越えた様々な人たちと触れ合い、のびのびとたくさんの経験をできる機会の創出や、親世代を含む人々が新しいかたちでつながり、連帯し、内外の様々な人々の手と知恵を借りながら地域づくりをしていくことが、相馬地方が持続可能なまちであるためには必要である。

幸いにして、我々には一千有余年続いてきた「相馬野馬追」や受け継がれてきた馬事文化がある。馬は、相馬の歴史から消えることなく存在してきた象徴的な生き物であり、相馬野馬追の開催やそれにちなんで各家で馬を飼う生活スタイルを残していることなど、馬との結びつきは今も続いている。

しかし、長い年月をかけて世代から世代へと受け継がれてきた人と馬がともに暮らしてきたライフスタイルや、ユニークな馬の文化を伝える担い手が、東日本大震災により著

しく減少している。人と馬のつながりを途絶えさせることなく、さらに一千年先の次世代にも繋げていくことは、地域の誇りを繋いでいくことであり、郷土愛を育むひとつの大きな要素である。

そして、この地域に生まれ育つ次世代の子どもたちが、自信を持って故郷を語れるよう、苦しい時代を生き抜いた誇りと、忘れずに伝えることの大切さを持ちながら、震災や原発事故からの復興という文脈からの自立を目指す。

#### ○パートナー協働プログラム対象事業

①地域の将来を担う子どもたちが、自分たちの暮らす地域を深く知り、郷土愛を育むことができるよう、世代間交流や実体験を重視し、子どもの成長段階に応じたプログラムを計画する。特に、相双地域の豊かな自然や歴史を教育資源として活用した体験活動を推進するほか、地域の大人たちと関わり、地域課題を共有することで、ふるさとの将来に対する当事者意識を持ち、生きていくうえで必要な「たくましさ」と「豊かな心」、「自ら考える力」を身につけ、郷土の未来を切り拓いていく人材を育成する。地域の幼稚園・保育園・小・中学生を対象とし、馬とのふれあい・厩務体験会の実施、南相馬市博物館と連携した地域学習、地域のリアルサムライ（相馬野馬追に参加している武者や、家で馬を飼っている方）たちとの関わり等を通し、子どもたちにとっての故郷（ふるさと）に伝承されてきた馬事文化の啓蒙を行うとともに、地域の魅力・資源を見つめ直し、故郷に誇りを持つことを目指し、以下2つのプログラムを実施する。

[1] 相双地方の小・中学生向け歴史探求&馬とのふれあい・厩務体験会（通年調整）  
自治体教育委員会と連携し、市内小中学校（全21校）を中心に、近隣の自治体の小・中学校の児童たちに向けた馬とのふれあい・厩務体験会を行う。馬との歴史や相馬野馬追について知るクイズやワークも組み込み、子どもたちの興味関心の醸成を図る。学校側の要望を汲み取りながら、時間や時期を設定する。

[2] 相馬双葉地方の小学生向け馬と共生プログラム  
次世代を担う子どもたちの活躍の場、学びの場が必要となっていることから、学校以外の仲間や世代間交流を通し、主体的に物事に取り組む子どもたちの育成をめざす。また、馬とのふれあいや世話を通じて、やすらぎや癒しを感じられるとともに、継続的な労働と馬の健康維持を通じ自らの責任感や自立心も養う。地域のリアルサムライたちとの関わりや、馬との暮らし体験を通して故郷（ふるさと）に伝承されてきた馬事文化の啓蒙を行うとともに、野外活動と組み合わせたホースキャンプでは自然の中で得られる多くの体験が豊かな心を育む。

- ・ホースフレンズ相馬デイキャンプ：馬とのふれあい・厩務体験、サムライ体験、野外活動、グループワーク

対象者：小学1年生～6年生（定員：10名程度）

日程：日帰り

- ・ホースフレンズ相馬キャンプ：馬とのふれあい・厩務体験・馬との暮らし体験、サム

ライ体験、歴史探求、野外活動

対象者：小学4年生～6年生（定員：8名程度）

日程：1泊2日

- ・ホースフレンズ相馬グラウンドワークコース・ライディングコース：馬との関わり・乗馬を学ぶ、グループワーク

対象者：小学1年生～6年生（定員：各8名程度）

日程：半日×4回（1ヶ月間）

※それぞれ教育分野や地域創生を学びたい県内学生のボランティア等受け入れを実施。

②相双地域出身で離れた土地で暮らす方々や、この地域に想いを寄せてくださる地域外の一般や学生を対象に、交流や親睦を深める集いの場創り。避難のためこの地域を離れた方や関心を寄せてくださる方々が繋がり、心の拠り所や居場所として、また被災地の現状を知ってもらう機会として集い、共に新しい地域コミュニティを創造していくパートナーとなっていだけるような、以下のプログラムを実施する。

#### ■地域外にお住まいの方々向けパートナープログラム

- ・みんなで創る相双ヴィレッジ：相双地域の魅力の再発見、地域課題の解決と新たな価値創造への道筋を探っていく、地域未来への対話の場。居場所作り、交流の場として。

対象者：地域外で暮らす相双地域出身者、相双地域に興味がある学生・一般の方

日程：2時間程度（オンライン開催）

- ・相双キャンプ：被災地を知る、食す、体験する。現状を知り未来を語り合う。

対象者：社会貢献や地域復興に興味のある学生、一般（定員10名）

日程：日帰り～1泊2日

- ・サムライキャンプ：殿と会える！相馬藩の歴史をたどる。サムライ・騎馬武者体験。

対象者：地域外の小学生とその保護者、歴史好きな一般（定員：10名）

日程：日帰り

- ・企業向け研修：馬との関わりを通じてのリーダーシップ・コミュニケーション研修。

対象者：企業、団体、チーム（定員：10名）

日程：日帰り～1泊2日（企業との予定調整の上）

#### ○期待される効果

##### ①相馬地方子供向けプログラム

#### ■地域の魅力を自ら語れる子どもたちに

馬や相馬野馬追への興味関心を醸成し、子どもたちにとっての故郷（ふるさと）に伝承されてきた馬事文化の啓蒙を行うとともに、郷土愛を育む。自分の口で地域の良さや歴史を語れ、この地域に住み続けたい、将来また戻ってきたいと思う子どもたちが増える地域を目指す。

#### ■“馬”と“仲間”と一緒に物事に取り組む楽しさ、難しさ、達成感を体験

グローバル化した社会では、バックグラウンドが異なる様々な人とコラボレーションする

ことが多くなる。これまで関わったことのない“馬”や“仲間”との出会いは大きな経験であり、そこでのコミュニケーションは難しさも感じながら大きな学びを得られる。馬に乗るといふ行為は、馬に自分がどうしたいかを伝えなければならない。自ら考え、伝え、行動する。それを学ぶため指導者の援助や仲間とのコミュニケーションが不可欠である。馬と関わることで他者との接し方の多くを学び、達成感や満足感を持つことで、挑戦する意欲を高めていく。

#### ■本物の経験

「馬」や「自然」とふれあうことで、リアルな経験を増やす場の提供をする。野外活動と組み合わせたホースキャンプでは、自然の中で得られる多くの体験が豊かな心を育む。命を感じ、自分の五感を使って、自分で考え行動する力を培う。

面白い！すごい！なんで？！どうして？！子どもたちは能動的な学びをする。

#### ②地域外パートナープログラム

##### ■共に新しい地域コミュニティを創造していくパートナー作り

馬と人の生活、相馬野馬追、SAMURAI 文化、食、放射能、共生…。今ある資源やこの地域ならではの歴史・文化を肌で感じ、地域を知ってもらう。地域外に住まわれている方々にも、居心地のいい「居場所」や「第二の故郷」として感じてもらう。

「特別な体験」に「人とのつながり」が加わると価値は増大する。馬とのふれあいや、被災地の現状を見つめるプログラムを通じ「相馬ファン」になっていただき、多くの人に共に新しい地域コミュニティを創造していくパートナーとなっていただきたい。多くの人に愛され・手がけられたふるさととは、子どもたちが将来、故郷を肯定できるような道しるべになっていくと考える。

#### ①・②共通：馬がもたらすもの

##### ■精神的効果

馬と触れ合うと安らぎや癒しを感じられる。馬のしぐさや表情から気持ちを読み取ると、馬も人の気持ちを読み取ってくれる。そんな心通じる瞬間が、馬との絆を芽生えさせ信頼関係を築いていく。心身ともにリラックスでき、嫌悪感や恐怖心が軽減し、自信や満足感が得られる。また、馬との関わりは決して乗るだけではなく、水やエサを与えたりブラッシングなど体のお手入れをしたり、厩舎の掃除などの馬の世話を通じて、継続的な労働と馬の健康維持を感じ、自らの責任感や自立心を養っていく。

##### ■身体的効果

筋肉の強化、柔軟性の向上、平衡感覚の発達、脊髄の支持・姿勢の改善などが見込まれる。

事業内容(事業種別 (コンポーネント) ごと)

裨益者 (誰が、何人)

①- [1] 相双地方の小・中学生向け歴史探求&馬とのふれあい・厩務体験会

市内小中学校 (全21校)

①- [2] 相馬双葉地方の小学生向け馬と共生プログラム

を中心に近隣の自治体の小・中学生、[1] 約 100名、[2] 約 30名

②地域外パートナープログラム	関東圏を中心とした一般、 学生、企業、約 40 名
----------------	------------------------------